

3 級

平成30年度
第149回簿記検定試験
直前対策問題
問題用紙

大分経理専門学校

第1問 (20点)

下記の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

現金 普通預金 当座預金 受取手形 売掛金
 未収入金 減価償却累計額 有価証券 備品 建物
 従業員立替金 買掛金 支払手形 前受金 所得税預り金
 備品売却損 引出金 売上 減価償却費 仕入
 給料 手形売却損 発送費 備品売却益 旅費交通費

1. 販売用の事務所用机 ¥648,000 を購入し、代金は翌月に支払うことにした。また当店負担の引取費用 ¥3,240 を現金で支払った。
2. 得意先A商店に商品 ¥432,000 を売り渡し、代金のうち ¥100,000 はB商店振出、A商店あての約束手形を裏書譲渡され、¥50,000 は以前受け取っていた手付金と相殺し、残額はA商店振出の小切手で受け取った。
3. 平成30年10月31日に、不要となったパソコン5台(購入日:平成26年11月1日、取得原価:1台あたり ¥100,000、減価償却方法:定額法、耐用年数:5年、残存価額:ゼロ、記帳方法:間接法、決算日:年1回・10月31日)を1台あたり ¥25,000 で売却し、代金は先方振出しの小切手で受け取った。なお、当期分の減価償却費の計上もあわせて記入すること。
4. 6月分の従業員給料総額 ¥3,000,000 から、所得税の源泉徴収分 ¥300,000 と従業員負担の保険料の立替分 ¥400,000 を差し引き、手取額を当社の当座預金口座から従業員の普通預金口座へ振り込んだ。
5. 以前に売上代金の一部として受け取っていた得意先振り出しの約束手形 ¥500,000 を取引銀行で割引き、割引料として ¥12,500 を差し引かれた手取金は当座預金とした。

第2問 (10点)

大分商店の平成30年6月の仕入帳と売上帳の記録は以下のとおりであった。これらの記録にもとづいて、それぞれの日付の取引が、仕入帳及び売上帳以外に答案用紙に示したどの補助簿に記入されるか、答案用紙の解答欄に○印を付しなさい。

仕入帳			
平成30年	摘要		金額
6	6	福岡商店	約手振出し及び掛け
		プリンター 20台 @100,000	
		約手振出し	1,000,000
		掛仕入	1,000,000
			2,000,000
	15	宮崎商店	現金及び小切手振出し
		プロジェクター 10台 @50,000	
		現金	100,000
		小切手振出し	400,000
			500,000
	20	鹿児島商店	返品
		プリンター 1台 @100,000	
		買掛金より差引き	100,000

売 上 帳						
平成30年		摘 要				金 額
6	10	宮崎商店			小切手及び約手受取り	
		プリンター	10台 @150,000			
			小切手受取り		750,000	
			約手受取り		750,000	1,500,000
	25	佐賀商店			当店振出約手受取り	
		プロジェクター	5台 @80,000			
			当店振出し約手受取り			400,000

第3問 (30点)

答案用紙の5月31日の残高試算表と次の[平成30年6月中の取引]にもとづいて、答案用紙の平成30年6月30日の残高試算表を作成しなさい。また当店はT銀行と当座借越契約(借越限度額¥500,000)を結んでいる。決算日は12月31日である。

[平成30年6月中の取引]

- 1日 先月から出張に出張していた社員が帰社し、出張旅費の精算を行った。出張時に渡した仮払額は¥50,000であり、精算後の残金¥4,530を現金で受け取った。
- 2日 商品¥64,800を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- 5日 仕入先に振り出していた約束手形¥108,000の期日が到来し、当座預金口座から引き落とされた。
- 6日 商品¥54,000を販売し、代金は来月普通預金口座に振り込んでもらうことにした。
- 7日 普通預金口座から現金¥200,000を引き出した。
- 8日 商品¥97,200を販売し、代金は得意先振出の小切手を受け取った。
- 9日 先月の給料支払い時に源泉徴収した従業員の所得税¥6,200を現金で納付した。
- 12日 業務用の切手¥6,200と収入印紙¥20,000を購入し、現金で支払った。
- 13日 先月掛販売した商品代金¥75,600が、本日普通預金口座に振り込まれた。
- 14日 仕入先に対する掛代金¥43,200について、普通預金口座から振り込んだ。また、振込手数料として¥540円が同口座から引き落とされた。
- 15日 得意先振出の約束手形¥162,000を銀行で割引引き、割引料¥6,480を引かれた残額が当座預金口座に入金された。
- 16日 前年度の掛売上代金¥32,400について、得意先の倒産により貸し倒れとなった。
- 19日 商品¥216,000を販売し、代金は先月受け取っていた手付金¥64,800を差し引いた残額を現金で受け取った。
- 20日 従業員の給与総額¥360,000から、所得税の源泉徴収税額¥6,200を差し引き、残額を現金で支払った。
- 21日 得意先より商品の注文を受け、手付金¥54,000が普通預金口座に振り込まれた。
- 22日 商品¥129,600を販売し、得意先振出の約束手形を受け取った。
- 23日 商品¥43,200を仕入れ、代金は来月支払うことにした。
- 26日 備品¥400,000を購入し、据付費用¥20,000とともに代金は小切手を振り出して支払った。
- 27日 従業員の出張にあたり旅費の概算額¥100,000を現金で渡した。
- 28日 普通預金口座から当座預金口座へ¥200,000を振り替えた。
- 29日 水道料金¥6,290、電気料金¥10,960、電話料金¥3,800、店舗の家賃¥108,000が普通預金口座から引き落とされた。
- 30日 月末のため、現金の実査を行ったところ実際有高は¥124,730であった。過不足があった場合には原因を調査することになっている。

第4問 (10点)

当店は3伝票制による伝票会計を採用しており、日々の取引を各伝票に記入し、仕訳日計表に集計し、総勘定元帳へ転記している。よって以下の6月1日の伝票から仕訳日計表を作成すること。本問においては総勘定元帳への転記は必要ないものとする。

入金伝票		出金伝票		振替伝票			
科目	金額	科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	50,000	仕入	60,000	固定資産売却損	100,000	備品	100,000

入金伝票		出金伝票		振替伝票			
科目	金額	科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
未収入金	10,000	買掛金	30,000	買掛金	5,000	仕入	5,000

入金伝票		出金伝票		振替伝票			
科目	金額	科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
備品	200,000	仕入	30,000	売上	10,000	売掛金	10,000

入金伝票	
科目	金額
売上	100,000

第5問 (30点)

次の(1)未処理事項および(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は平成30年1月1日から12月31日までの1年間である。

(1)未処理事項

- 現金の実査を行ったところ帳簿残高より¥1,000多かったことが判明した。この原因については不明のため、適切な処理を行う。
- 決算日以前に注文のあった商品¥300,000を本日発送し、注文時の手付金¥200,000を差し引いた残額は1か月後に入金される予定である。

(2)決算整理事項等

- 期末商品棚卸高は¥428,000であった。売上原価は仕入勘定にて計算する。
- 受取手形と売掛金の期末残高に対して、3%の貸倒引当金を見積もることにした。
- 以下の固定資産台帳(一部)より固定資産の減価償却を行う。記帳方法は間接法とする。

固定資産台帳 (一部)

資産区分	耐用年数	償却方法	取得日	取得原価	残存価額
建物	30年	定額法	平成10年1月1日	20,000,000	取得原価の10%
備品	5年	定額法	平成30年9月1日	1,500,000	ゼロ

- 保険料は向こう1年分を9月1日に全額支払ったものであり、受取地代の金額には翌年1月分¥100,000が含まれているため、適切な処理を行う。
- 本年12月分の給料¥150,000は翌月に支払うことになっているため、給料の未払を計上する。また定期預金に対する未収利息¥540を計上する。